中国（西安、洛陽、上海）訪問記

福武教育振興財団の第九回海外教育事情調査は、対象を中国の西安、洛陽を中心として、去る九月二十九日～十月六日、十三名の団員で実施された。

岡山・上海便が就航して、調査団にとって非常に便利になった。今回の調査訪問予定は、まず、西安では陝西省教育委員会、私立中高校、師範大学、洛陽では洛陽市人民政府、洛陽市教育委員会、幼稚園、小学校、上海で専門学校の合計八カ所であった。

西安の高新第一中学は、「尊師、愛生、敬業、篤学」を校訓に、三高(高いスタートライン、高い要求、高い質量)三新(新しい学習体制、新しい教育思想、新しい教育方法)を教育理念として、素晴らしい教育環境の中で、二十一世紀に適応できる人材の育成が進められているようだ。

西安高新第一中学、一年生の真剣な表情

一年生の数学の授業を参観した。競争率十倍の難関を突破してきた生徒たちだけあって、どの顔も利発そうで目が輝いている。五十五名全員が一つになって授業に打ち込んでいる姿には胸を打たれた。

洛陽市直第二幼児園と洛陽市実験小学は、国慶節の休日にもかかわらず、我々のために学校園を開いたばかりでなく、午後遅い到着だったのに大勢の園児、児童が入口の両側に並び、手に手に花や旗を振りながら「歓迎歓迎熱烈歓迎」の大合唱をしてくれた。

この園は保育園と幼稚園が共存している洛陽市立の幼児園で、中国では両親とも働くのが当たり前なので、園で朝、昼、夕の三食をとり、午後五時過ぎに親が迎えに来る。

小学校でも大勢の児童の歓迎の大合唱による出迎えを受けた。更に、五時を過ぎていたにもかかわらず、踊り、歌、演奏、書画の製作などで我々を楽しませてくれた。幼児園でも小学校でも、子供たちの純真な心が体全体の動きや表情にそのまま表れていて、とても気持ち良く感じられ、一生懸命に演技する姿に接して目がうるむほどの感動を覚えた。

洛陽市実験小学、児童と団員の合唱

上海では商業会計学校を訪れた。中学卒七十％高卒三十％合計五千名が在学する国立のマンモス専門学校である。中国も不況で就職難の時代であり、就職のための資格や技能を身につける専門学校の人気は高くなっている。

広告デザイン科の授業参観をした。二十名ほどが実に真剣な取り組みをしていた。

午後二時を過ぎて、下校前に六十名ほどの学生がきちんと並んでラジオ体操をしていた。服装はまちまちだが奇異な姿は見られず、体操にも精神を傾けている様子がよく分かる。帰りに門で見送ってくれた女子学生の表情もとても良かった。二十一世紀の中国を担う青少年の姿は明るい。

（須賀）

上海商業会計学校、団員を見送る
女子学生の表情は明るい

編集後記

昨年九月七日、福武文化振興財団は岡山県三木記念助成金を文化部門で受賞した。平成八年の財団創設後、地域の文化振興に積極的に取り組んできた業績が評価されての受賞で、誠に喜ばしい限りである。教育振興財団と共に、岡山県の教育・文化の振興に寄与するために、今後も一層の努力を続ける所存である。

教育振興財団の海外教育事情調査は今年十回目を迎え、新たな展開が予想される。文化振興財団の余暇・生涯学習研究会は四回の会議を経て、二十一世紀の余暇について実のある提言をまとめつつある。

教育では、子供たちの良き成育のために地道な努力を重ねている人たちを、文化では、身近な生活に直結した現代文化、歴史的な時間を経た伝統文化、それぞれの普及、発展に活動している人たちを、今後も積極的に支援していきたい。

（編集子）

（題字は谷口理事長　書）

不易

第2号
平成11年2月20日
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
印刷（株）シンエイ・コム

第12回 福武哲彦教育賞 教育研究助成・図書館助成 贈呈式

あいさつする谷口理事長

優れた教育的業績を挙げた個人や団体を顕彰する「福武哲彦教育賞」の本年度贈呈式は昨年七月十六日、岡山プラザホテルで行われ、元岡山市教育委員長の赤枝郁郎氏、高松農高(高畑幸彦校長)、岡山市の「古都の子供を育てる会」(堀木力推進委員長)の一人・二団体に、谷口理事長から賞状と副賞(各五十万円)の目録、記念メダルが渡された。これで同教育賞の受賞者は昭和六十二年の創設以来十六人・二十団体となった。

また、保育所、幼稚園、小・中・高・特殊教育諸学校及び専門学校等において、教育の内容、方法、及び教材開発等に関する注目すべき実践的研究に取り組んでいる個人やグループに対する「教育研究助成」三十八件、学校園の図書館を利用した教育活動の振興を目的とする「図書館助成」十三件に、谷口理事長から賞状と助成金(上限各二十万円)の目録がそれぞれ代表者に渡された。これで教育研究助成は昭和六十二年の創設以来二百五十九件となり、昨年開設された図書館助成は十九件となった。なお、これまで学校園に対して図書を贈呈していた「図書助成」は本年度から図書の充実も含めた「図書館助成」に一本化することとした。

表彰・助成受賞者全員、来賓と記念撮影

教育研究助成・図書館助成は年々わくを広げており、今後も同様の規模の助成が見込まれるので、多数の応募が期待されている。

第2回 文化関係助成 贈呈式

第2回文化関係助成贈呈式

助成証書、助成金目録の贈呈

埋もれた歴史や文化の掘り起こし、伝統芸能の継承発展、演劇、音楽、福祉関係など様々な活動を通じて地域の活性化に貢献している団体を支援する目的の「文化関係助成」は二年目を迎え、本年度贈呈式が昨年十月二十二日、岡山プラザホテルで行われた。

本年度は文化活動、調査研究の二部門について公募し、応募九十三件(前年度六十四件)の中から文化活動部門三十九団体(同二十団体)と調査研究部門八団体、二個人(同八団体)の計四十九件を選び、谷口理事長から賞状、助成金(上限各二十万円)の目録がそれぞれの代表者に渡された。

文化関係助成は、平成八年に設立された福武文化振興財団が、岡山県の地域文化の振興を目的として行っている事業で、社会人で構成するグループや団体(調査研究では個人も)を対象とする。県内各地域で地道なボランティア活動を続けて社会に貢献している人たちを援助するもので、内容は様々である。今後は伝統文化の振興に力を入れながら、広く現代文化にも目を向けていく。

助成受賞者全員、来賓と記念撮影

第11回　教育研究助成・図書館助成　助成成果報告会

報告会会場風景

福武教育振興財団の事業である教育研究助成・図書館助成の成果報告会は昨年十一月二十八日(土)に岡山プラザホテルで行われた。参加者は約七十名。この会は、平成九年度に助成した研究者（教育研究助成二十一件、図書館助成六件）が一年間研究してきた成果を発表するもので、今回で第十一回目。

前回と同様、パソコンやHPなどの機器を駆使しての発表であった。更に今回は早島町立早島小学校の協力を得て機器類を借りることができたので、教材提示装置も使うことができ、発表の方法に幅が広がったと思われる。この場をお借りして早島小に改めてお礼を申し上げたい。

発表者は当日の報告順に次のとおり。(学校名は略)

1開成小(岡山)　柴田麻子・小森乃利子教諭。2岡大教育学部附中　大月一泰教諭。3川面小(矢掛)　清水誠一教諭。4県立岡山東商高　吉田信・今滝晃一教諭。5郷内中(倉敷)　余伝宏教頭・総社西小(総社)　糸島耕太郎教諭・県立高松農高　廣谷真治教諭、の九名の先生による五報告。報告されたテーマは「郷土づくり」から「進路指導の問題」まで多彩であった。また、研究の進め方も学校ぐるみで取り組んでいたり、違う校種の先生方が協同で研究するなどいろいろであった。

参加者からは、「発表の出し方等、コンピュータを利用して工夫がされていた。」「何年も続けて取り組んでいる研究だけにその努力の過程がよく分かり、非常に参考になった。」との声があった。

発表後に、教育研究助成審査委員長の髙旗正人教授(岡山大学教育学部)から「よく整理された良い発表が多かった。年々レベルは上がっている。」との講評をいただいた。

一年間の先生方の研究成果が、今後幼児・児童・生徒の学習に活用され、さらに花が開くことを信じている。(岡田)

講評する審査委員長髙旗教授

がんばってます！

早島町立早島小学校

校長　武　泰稔

ホームページ：http//www.icity.or.jp/hayasho/

十二月十八日(金)。暑いぐらいの陽気。この日、都窪郡早島町立早島小学校を訪問させていただいた。

早島小の指導の重点の一つである「郷土理解と国際理解を深める」という点について武泰稔校長先生からお話を伺った。

「何かを核にして、学校を活性化させようとの思いから本校は国際理解教育を柱としている。世界に目をむけることは大切であるが、しかしそれだけにとどまらず、同時に郷土を愛する心も育てたいと考えている。その一環として、ボランティアでお願いした外国の方と早島小教諭によるTT(ティームティーチング)を実践している。外国人を呼ぶことにより効果的な学習ができる。」との説明を受けた。

例えば、五年生の社会科の時間で、タイから日本へ木材を輸入する内容を学ぶ単元では、岡山大学農学部のタイ留学生を呼び、伐採された後の自然について討論した。六年生の社会科の授業では、加計学園からアメリカ人ディビット・M・キンブル氏を招きアメリカ合衆国について話し合った=写真は一場面。

徹底された指導方針のもと、恵まれた施設で学び、遊ぶことのできる児童がうらやましい限りである。更に、武校長先生が「本校の教諭は皆、意欲的で熱心な先生ばかりですよ。」とうれしそうにお話ししてくださった姿が印象に残った。

(岡田)

六年生社会科の授業風景

第1回　文化関係助成（文化活動調査研究）　助成成果報告会

岡山ポリフォニーアンサンブルの報告

福武文化振興財団の事業である文化活動助成の成果報告会が、昨年十一月二十六日に岡山プラザホテルで行われ、約百三十名が参加した。当財団は平成九年度から助成を始めたため、今回が第一回目の開催となる。

平成九年度助成を受けたのは、文化活動二十団体、調査研究九団体。報告会は、活動してきた成果をたくさんの人に知ってもらえる絶好の機会とあって、ほとんどの団体が発表を希望したが、時間の関係で発表を六団体が、展示を六団体が行った。

会場ロビーの展示

発表の持ち時間は約二十分で、スクリーンにビデオやパソコンから映像を映し出しながらの説明から、レジュメを用いた報告まで、それぞれに工夫をこらした方法での発表となった。どの団体もユーモアをまじえて聴衆をおおいにわかせていたが、途中アンサンブルによる演奏が行われたり、かすりの着物に姉さんかぶりの女性が踊りの所作を披露するなど、いかにも文化らしく華やかな会となった。

発表を行った団体は次のとおり。「鳥羽踊り保存会」「緑の共和国合唱団」「岡山ポリフォニーアンサンブル」「ゴザ織り唄を唄おう会」「岡山要約筆記クラブ」「古代吉備国を語る会」。

展示は、人物の足跡を写真でたどったり、活動の内容を大型のポスターにしたものや壁新聞など、各団体の特色をいかしたものが出品された。また、実際に手に取って見てもらえる冊子もあって、好評だった。

展示を行った団体は次の通り。「おかやまアートファーム」「大宮を考える会」「哲西牧水顕彰会」「未来オペラ集団トロヴァトーリ岡山」「吉備路芍薬の会」「雪舟を語る会」。なお「ランドプランニング岡山」は、平成九年度の助成団体に対してくわしい資料を配付した。

会の終わりにあたって、目瀬審査委員長（美作女子大学長）から、「全体として、活動のグレードが上に上がり、活動の輪が横に広がっていて、助成の効果があったことがはっきりと分かる。」との講評をいただいた。

平成十年度の助成者は、「たいへん参考になった。来年は是非発表をしたい。」と早くも名乗りをあげていた。

すっかり親しくなった助成者同志が別れを惜しむ姿もみられ、報告会をきっかけにさらに輪が広がっていくことを期待したい。

(佐々木)

こんにちは！

みのまちづくりの会

会長　服部　和文

みのは岡山市街地からバスで二十分。近くには半田山植物園や水源地があり、豊かな自然に囲まれている。また、地域内に大学を二つも有する文教地区でもある。

十月三十一日、「みのまちづくりの会」主催の音楽祭「ダイスキミーツ'98」を訪れた。会場は地区内の法界院というお寺で、本堂を見上げるように配置された舞台、音響装置も本格的なもので、昨年に引き続いて二回目の開催となる。

出演者は地域の音楽愛好家から子どもたち、ゲストにはネパールの古典音楽と多彩なプログラムが楽しい。中でも弦楽四重奏とフルートの「里の秋」が演奏された時には、美しいメロディに会場の人々の笑顔が重なって胸がいっぱいになった。

境内では模擬店もおおにぎわいで、当日の参加者は二千名にも上ったそうだ。代表者の服部さんが、「よかったよ。」の一言でボランティア全員の疲れがふきとびますと言われたのが心に残る。これからも素晴らしい音楽祭が続いていくよう願いながら、みのを後にした。

(佐々木)

ダイスキミーツ'98の会場風景